

ロシア禁輸ユーザー164 番の三位別体

1. 要約

5 月 10 日に外務省が公表した第 3 弾ロシア禁輸ユーザーリストに次の記述があります。

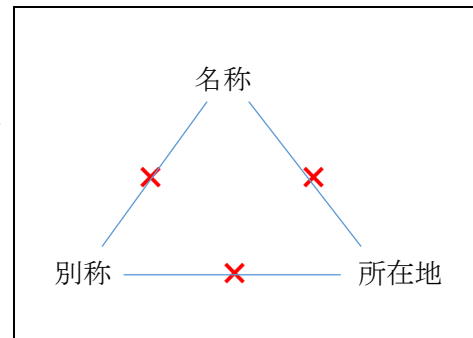
164 通信管理システム科学研究所（別称、NIISU 及び株式会社 NIISU）
Scientific Research Institute of Communication Management Systems,
a.k.a., the following two aliases:
-NIISU; and
-NIISU JSC.
所在地 : 25/3B Zvetohnaya St., Room 417, St. Petersburg, 196006,
Russia.

この組織について調べていたところ、リストの名称・別称・所在地記述が全くかみあわないことに気付きました。

「全く」というのはどういうことか。第 1 に掲載された所在地が名称・別称のどちらのものでもなかったということ。第 2 には掲載の別称も名称とは別の組織のものだったということです。

せめて名称・別称どちらかでも所在地記述に整合していたら、或いは名称と別称が整合していたら話は別です。ところが実際は三者全くのバラバラ。これではどれが正しいのか判断のしようがありません。

とりあえず名称記述が正しいものと仮定して、それに見合った別称・所在地の情報を探してみたいと思います。



2. 齟齬の詳細

2-1 所在地に疑義

いきなり「これは間違いだ」と言われて当惑された方もあるでしょうから、わかりやすいところから話を始めたいと思います。164 番のすぐ前の頁に次の記述があります。

162 科学研究所フェルリット・ドメン（別称、NII ドメン及びフェルリット・ドメン・コーポレーション）
Scientific Research Institute Ferrite-Domen, a.k.a., the following two aliases:
-NII Domen; and
-Ferrite-Domen Co.
所在地 : 25/3B Zvetohnaya St., Room 417, St. Petersburg, 196006,
Russia.

御覧の通り、162 番と 164 番の所在地記述が重複しています。

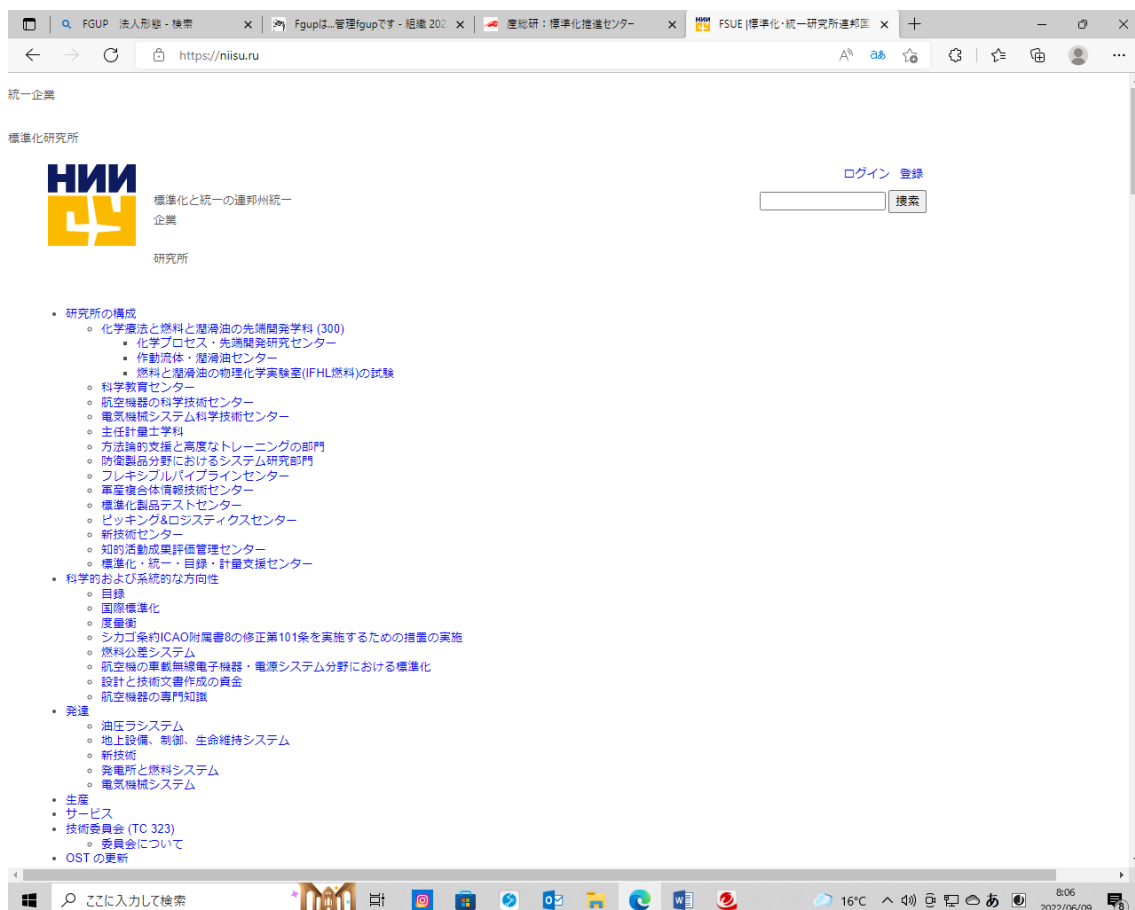
勿論、偶然に同じ所番地だったとか、同じ番地の中での隣人といった可能性もありますから、このことだけでただちにおかしいとはいいいきれません。別称についても併せて考えることにしましょう。

2-2 「NIISU」とは何者か

別称として記された「NIISU」をロシア文字に直すと НИИСУ。これに当たる団体といえば「Научно-Исследовательский Институт Стандартизации и Унификации」です。

「Научно-Исследовательский」は「学術研究の」、「Институт」は「研究機関」を意味します。「Стандартизации」は「標準・規格化」、「Унификации」は「統一」を意味します。

つまり「標準化・統一化研究所」ということですから、日本で言えば産総研の標準化推進センターに近い性格と言えるのではないのでしょうか。ホームページ (<https://niisu.ru/>) のグーグル訳文は、その印象を裏書きしているように見えます。



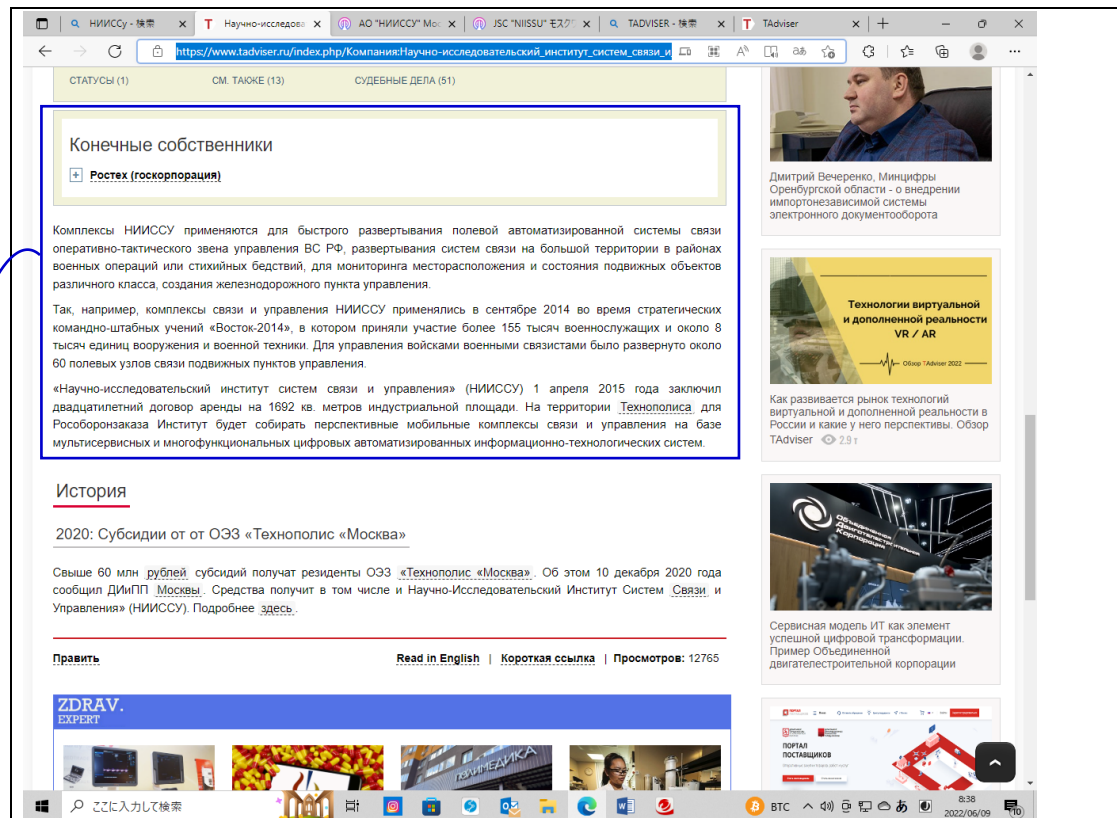
しかしこれでは、あまり軍事的な匂いがありません。また住所がモスクワ市（ул. Сокольнический Вал, д.37 /10）という点も外務省リストの情報と異なります。

2-3 「NIISSU」なら話を通る

モスクワに「"НАУЧНО-ИССЛЕДОВАТЕЛЬСКИЙ ИНСТИТУТ СИСТЕМ СВЯЗИ И УПРАВЛЕНИЯ"」、略して「НИИССУ」（英字では NIISSU）という研究所があります。

「СИСТЕМ」は「システム」、「СВЯЗИ」は「通信」、「УПРАВЛЕНИЯ」は「運営・管理」を意味しますから、外務省リスト掲載の英文名「Scientific Research Institute of Communication Management Systems」とも整合します。

この研究所の概要を、ロシア情報サイト TADVISER は次のように紹介しています。



究極の所有者

+ ロステック (国営企業)

NIISSU 複合施設は、ロシア連邦軍の運用上および戦術上のリンクのフィールド自動通信システムの迅速な展開、軍事作戦または自然災害の分野における広い領土への通信システムの展開、さまざまなクラスの移動物体の位置と状態の監視、鉄道制御点の作成に使用されます。

例えば、NIISSU の通信・制御システムは、2014 年 9 月に 155,000 人以上の軍人と約 8,000 ユニットの武器と軍事装備が参加したボストーク-2014 戦略指揮所演習で使用されました。移動制御点の約 60 のフィールド通信ノードが、軍の信号係によって軍隊を制御するために配備された。

通信制御システム研究所 (NIISSU) は 2015 年 4 月 1 日、1692 平方メートルの産業スペースについて 20 年間のリース契約を締結しました。Rosoboronzaz の注文のためのテクノポリスの領土で、研究所は、マルチサービスと多機能デジタル自動化情報技術システムに基づいて有望なモバイル通信と制御システムを組み立てます。

また「ARMY2022」展示会サイトでも次のように紹介しています。

The screenshot shows a web browser displaying the NIISU exhibition stand page. The page has a red header with the 'ARMY2022' logo and navigation links: 'ABOUT ARMY-2022', 'EXHIBITOR', 'HOW TO GET TO', 'CONTACTS', and 'CATALOGUE'. Below the header, the 'EXHIBITORS' tab is selected. The main content area features the NIISU logo, a company stand icon, and contact information. The address is highlighted in red: 'Starokaluzhskoe shosse, 58, Moscow, 117630, Russia'. The site is 'niissu.ru', email is 'niissu@niissu.ru', and phone is '+7 (495) 280-73-42'. A thematic section lists 'Communications means/systems and automated control systems of troops'. A brief description of NIISU's work is at the bottom, along with social media links and a 'Print' button. The browser's address bar shows 'https://www.rusarmyexpo.com/army2021/catalog_exhibitors/members/42320'. The Windows taskbar at the bottom shows the date as 2022/06/09.

Starokaluzhskoe shosse, 58, Moscow, 117630, Russia

Site: niissu.ru

E-mail: niissu@niissu.ru

Phone: +7 (495) 280-73-42

Thematic sections:

- [Communications means/systems and automated control systems of troops](#)

JSC NIISU performs work on the creation of specialized systems in the interests of the Ministry of defense of the Russian Federation and other law enforcement agencies. Currently, the Institute has the status of the head enterprise for the creation of a field communication system of the Armed Forces of the Russian Federation (RF armed forces) and an automated control system for special operations forces.

こうした機関ならば、国防色クッキリですから、制裁対象となるのもうなづけます。
やはり外務省リストに掲載の日本語表記（通信管理システム科学研究所）は間違っていないか
ったと考えることができそうです。

この考え方に沿って書き直してみましょう。

名称	；通信管理システム科学研究所
別称	；株式会社 NIISU （ロシア語では「АО НИИССУ」。 なお АО=АКЦИОНЕРНОЕ ОБЩЕСТВО は株式会社の意味）
所在地	；Starokaluzhskoe shosse, 58, Moscow, 117630, Russia （117630, город Москва, Старокалужское ш., д.58）

3. 間違いはなぜ起こったか

Entity List の下記記事が外務省リスト 164 番に酷似しています。

	Scientific Research Institute of Communication Management Systems, a.k.a., the following two aliases: -NISU; and -NISU JSC. 25/3B Zvetochnaya St., Room 417, St. Petersburg, 196006, Russia.	For all items subject to the EAR. (See §§734.9(g), ³ 746.8(a)(3), and 744.21(b) of the EAR)	Policy of Denial.	87 FR 20299, 4/7/22.
--	---	---	-------------------	----------------------

米国商務省が不注意でリストに載せたのを、外務省もロクに内容の吟味もせず丸写ししたと考えるのが妥当でしょう。

5 月施行の改正《遵守基準省令》に、「ユーザーからの直接入手ではなく、間に他者が入った間接入手の場合は、入手情報の信頼性を高めるための措置を講ぜよ」という趣旨の項目があります。まさに今回のお粗末につける薬と言えるかと思います。

ではどのような「措置」が考えられるでしょうか？ 私が提案したいのは、現地語表記を確認することです。さすがにアラビア文字を読めとは申しませんが、ロシア語ならば対応可能な筈です。(実は私もその作業をしているところです)